

■全体講評 【運営委員長 土肥真人】

1. 公開審査会と助成決定について

第21回目の世田谷まちづくりファンド公開審査会、5/25（土）と6/1（土）の2週間にわたり5部門51グループの発表を皆さんと一緒に聞き、見て、話して、感じて、厳しく、そして充実した審査会になりました。私は運営委員長として4回目の公開審査会でした。私が考える運営委員会が果たさなければならない重要な二つの役割のうちの一つが皆さんのまちづくり提案を審査することで、これは毎年のことですが、一市民として市民の皆さんの提案の助成の可否、また金額までを決定するのは、本当に緊張し、また責任を感じることです。そしてこれも毎年感じてきたことですが、審査会の後はもう来年の報告会が楽しみになります。助成をうけることになったグループの皆さんが、これから一年、どのような物語をそれぞれのまちを舞台に繰り広げられるのか、わくわくするのです。

今年は「はじめの一步部門」に11件、「まちづくり活動部門」に28件、「災害対策・復興まちづくり部門」に8件、「まちを元気にする拠点づくり部門（予備審査）」3件、そして昨年度から創設されていた「10代まちづくり部門」について1件、の計51グループが応募されました。審査結果はそれぞれ部門ごとに11/11、25/28、4/8、3/3、1/1、となり今年度は44グループの皆さんが、ファンドの助成を受けて世田谷のまちや東日本大震災の被災地のまちで活躍することとなりました。今年は昨年に比して、応募グループ数、助成決定グループ数どちらも、大幅に増えました（昨年度は応募44、助成34グループ）。これは本当に嬉しいことで、特に「はじめの一步部門」11グループ、「まちづくり活動部門」一年目16グループ（うち助成14）、「10代まちづくり部門」初応募1グループ！など、このファンドを用いて初めてまちづくりに関わろうとする人々がたくさん来られたことは、世田谷の底力とでも言うのでしょうか。もの凄い迫力を感じました。特に「10代まちづくり部門」、昨年は応募0でしたので、1グループでも応募があったのは本当に嬉しく、部門の趣旨である様々な世代によるまちづくりの実現への大きな一歩になると考えます。しかもこの1グループ「キャラメルポップコーン」の提案内容、プレゼンテーションは、圧倒的に素晴らしかった！少し緊張しながら審査に臨んだ13歳から17歳の4人は、世田谷のまちの未来を明るく照らしているように思いました。

2. 活動報告会について

・「災害対策・復興まちづくり部門」活動報告会（3月2日）

本年3月2日に成城ホールで、第20回（2012年度）「災害対策・復興まちづくり部門」の助成グループによる活動報告会が160名ほどの参加者を得て開かれました。〔芦花公園し

あわせ野音の会〕〔福島のこどもたちとともに・世田谷の会〕〔遊びとまち研究会〕〔こちカフェ隊〕から、それぞれの活動報告、世田谷のまちづくりへのフィードバックの提案がありました。全体として非常に有意義な提案が得られたと思います。また報告会の後半は運営委員の福永さんの司会により、参加者全員で市民からの復興プロセスの提案をまとめました。世田谷区都市整備部が作成している「世田谷区都市復興プログラム：大地震の後を今から考えよう」にある発災以降の復興プロセス図を巨大に引き伸ばして、区の考える復興プロセスに4グループのフィードバックを重ねてみて、さらに参加者からの様々な意見も同じ復興プロセス図に重ねました。すぐに分かったことは、区の復興プロセス図には、市民に期待される活動は具体的には何も書かれていないことです。図らずもこの空白を世田谷まちづくりファンドの「災害対策・復興まちづくり部門」がもたらした成果が埋め始めたと言えます。また当然なのですが、今回の4グループの活動が発災後2年目の活動だったので、フィードバックもまたこの時期のもの（例えば仮設での支援の受け方）が多いことも分かりました。「災害対策・復興まちづくり部門」は様々な議論を経て継続が決まりましたから、今年の活動報告からのフィードバックはおそらくもう少し後の時期の空白を埋めてくれると思います。（これらの成果についてはトラストまちづくりのHPにアップされると思います。）

・「はじめの一步部門」「まちづくり活動部門」「まちを元気にする拠点づくり部門」報告会について（6月1日）

第20回（2012年度）助成グループの活動報告会を、本年（第21回）の公開審査会と同日に開催しました。同時開催にしてから3年目になります。今年は13グループがファンドを卒業されました。報告の順番は、これも3年目になりますが、「つながり順」に行っていただきました。この1年間に世田谷で繰り広げられた様々な活動が、「同じ地域」「自然」「子ども」などのつながりを持ちながら報告されました。世田谷区の地図にシールで示された皆さんの活動場所、その活動の豊かさがマジックの線で結ばれてゆくのをみると、世田谷まちづくりファンドの重要な役割のひとつは、助成グループ同士のつながりを生み出すことなのだと、改めて教えられます。審査会ではある意味、グループ同士競争するわけですが、しかしその後には繋がりがあって世田谷のまちづくりを実現するのです。これは審査会や報告会が公開でなければできないことです。

報告していただいたグループの皆さん、お疲れ様でした。これからも大いにまちを舞台に活動を繰り広げていただきたいと思います。（ただ今年は3グループが報告会を欠席しました。市民のお金を用いた活動をぜひ報告していただきたかったし、他のグループと繋がってもらいたかったと思います。それぞれ事情はあるのですが、今後報告会の欠席をどう扱うのか、宿題を議論残された感じで、大変残念に思っています。）

3. 本年度の運営委員会について

私が委員長になってから、当ファンドを取り囲む環境にいくつかの重要な変化が起きています。

まず第1に、世田谷区からの追加の寄付（出損）が2年前からなくなっています。（財政上の理由だと聞いています。）また市民や企業からの寄付もほとんどない状況は変わっていません。現在は世田谷まちづくりファンドには約一億2000万円あるそうですが、状況が大きく変わらない限り、ファンドはこのお金を使い切って終わることになります。このお金をどのように助成し、どの期間で終えることが、世田谷の市民主体のまちづくりの推進に資するのか、本気で考えないといけない時期に来ています。もちろんこのファンドを残すためにいかに資金を集めるかという方向の議論もありえます。

第2に、東日本大震災です。地震、津波、原子力による甚大な被害は世田谷のまちにも様々な形で影を落としました。当ファンドはこの事態に対し「災害対策・復興まちづくり部門」を創設し、20年間の慣例を2点変更し対応しました。一つは世田谷のまちへのフィードバックを前提に東北での活動を認めたこと、一つはこの部門への予算を「まちづくり部門」などと別に組み、その結果助成総額が800万円（「拠点部門」を除く）になったことです。

運営委員会にはこれらの環境の変化に対応し、ファンドを時代や社会にあったものとする役割があります。これが運営委員会が果たさなければならない重要な二つの役割のうちの他のもう一つです。

例えば、本年は圧縮率（予算総額／運営委員が妥当だと考えた助成総額（運営員の平均値））が85%程度と高いものになってしまいました。これは助成を受ける団体にとってはもちろん、審査をする運営委員にとっても、決して好ましい事態ではありません。審査委員が必要だと考えた助成金額から圧縮されるとなると、審査委員が期待する活動の展開が難しくなります。これでは十分な成果を求めること自体が無理と言うことになってしまいます。公益信託世田谷まちづくりファンドの委託者であるトラストまちづくりからは、先の展望もなしに目先の必要性からファンドの資金を取り崩すのは如何なものか、とのご意見もいただいたことがありますから、ファンドの今後の展望について考えながら、しかし現在必要だと思われる金額を、機械的に一律に圧縮削減するのは止められないかと考えています。

「災害対策・復興まちづくり部門」の充実、新たな部門の設立など含め、これら予算総額、今後のファンドの展望（特にお金の使い方）などを、今年の運営委員会では話し合っ
てみたいと思っています。そして当ファンドを市民ファンドですから、ぜひともファンドに心を寄せられているすべての市民の方々と一緒に、これらのことを考えてゆきたいです。

最後になりますが、昨年度まで運営委員を務めていただいた小河原さん、鶴尾さん、佐谷さん、市川さん、春日さんは、任期満了のため、今年三月で退任されました。特に石塚前委員長の時から 5 年間、委員を務めて来られた小河原さん、鶴尾さん、佐谷さん、市川さんには、新米の運営委員長として何から何まで教えてもらい、支えていただきました。そしてファンドについて共に考え、行動しました。本当に感謝しております。と同時に、とても楽しかった。ありがとうございました。今年からは、富田さん、水谷さん、斉藤さん、関口さん、佐藤さんが新たに運営委員に就任されました。皆さんそれぞれの観点から世田谷のまちづくりを暖かく、そして厳しく見ていただける方々です。世田谷まちづくりファンドがとても大切な時期を迎えつつある時期ですから、新委員の皆さんと一緒にファンドの運営により一層真摯に取り組んでいきたいと思っています。

また年に何回もある報告会・審査会が、この一年間、滞りなく有意義に素晴らしく運営できたのは中央三井信託銀行の稲垣様、運営をお手伝いいただいた「まちづくり広場」と「トラストまちづくり」の皆様、また報告会・審査会で発表された市民の皆様、審査会を見に来場してくれた方々、皆さまのご協力の賜物です。深く感謝いたします。

■はじめの一步部門

【部門全体講評】（個別コメントは無し）

公開審査会（5/25）に先立つ運営委員会で書面審査を行いました。例年通り「まちづくり」との関係が議論される活動もありましたが、やはりあらかじめ「まちづくり」の範囲を想定するのではなく、皆さんの活動を「まちづくり」へ繋げてもらうことで「まちづくり」を豊かにしてもらおう、とうことになりました。申請された11件全てが助成対象グループとなりました。おめでとうございます。どうぞ皆さんのアイデアを世田谷のまちに実現してください。一年後の活動報告を心から楽しみにしています。どうぞ活動を楽しみながら、目的が達成できるようがんばってください。

■まちづくり活動部門（部門全体講評は無し）

1-1 世田谷区マンション交流会

・確かにマンション住民は余り使われていない地域の資源だな、と思いました。ただこの意味では、マンションの住民が交流しているだけでは足りないなので、いかに地域の町内会や市民グループへと開いて行くか、ぜひトライしてください。

1-2 「品川用水」の復活研究会

・かつて人びとの生活や作物の生産に必要不可欠だった用水を、今一度、記憶の中から掘り起こし、様々な媒体で復元する試みは、地域のアイデンティティにとって重要なものだと思います。この点からは地域の住民の方々に参加してもらいアイデンティティを共有してもらわねばなりません。ぜひ頑張ってください。

1-3 特定非営利活動法人 日本防災士会世田谷支部

烏山の商店街と共同で防災計画を作成すること、とても期待できる取り組みだと思います。どのような計画になるのか、また計画策定の過程自体も、大変興味があります。来年の活動報告を楽しみにしております。

1-4 ハートロールファイブ 上町コミュニティセミナー運営委員会

・「情報弱者」の方々にどのように必要な情報を伝えるのか、確かに重要な問題だと思います。ただ説明をしていただいたのに未だ先端科学セミナーが、どのようにこの問題に貢献するのか、いまひとつ理解できませんでした。活動報告で教えてください。

1-5 ダイタ森イチバ

・企画のイメージはよくわかりました。森と都会の関係を問い直す様々な取り組みが連鎖するのも実現すれば素晴らしいと思います。ただ収支計画書の講師代およびコンサル代は

本当にこの企画に必要なのか、得心できませんでした。

1-6 明大前駅周辺地区街づくり協議会

・まちの環境の変化を「現状と今後」「日常と災害時」の4象限で捉えようとする試みは大変面白いと思いました。気になったのは、それぞれのマップを「皆で作成」とのみ書かれていることです。本当に「皆で作成」するのはなかなか大変な作業だと思いますので、ぜひ頑張ってください。また収支計画書の学術講演会、まちづくりコンサルタント料は不要なのではないかと判断しました。

1-7 世田谷録音奉仕グループ「ひびき」

・35年間活動されてきた「ベテラン」のグループですね。ポスターセッションでは私の知らないことをたくさん教えていただき、機材の高い理由などもよく理解できました。今回の助成を機に、さらに「まちづくり」との関係を考え、深めていただき、皆様の活動とまちの関係をまた教えていただければと思っています。

1-8 世田谷代田もの・こと祭り実行委員会

・手作りの祭りを実現されたことに敬意を表します。地元の関係者と一緒に、ほぼ自己財源で実現されたことに大きな意味があるのではないのでしょうか。「継続できるインフラとしくみ(経済基盤と組織)」はすでにできているという気もするのですが、いかがでしょうか。

1-9 カタクリの会

・地域にある貴重な資源である旧住宅を四季折々の花で飾り、生きた場所にするのは素晴らしい活動だと思います。今年は活動場所も広げることですので、皆様の技をもって、植物と人間、季節と場所の一期一会の機会を、まちを知り地域を愛することへと繋げていただきたいと思います。

1-10 特定非営利活動法人 国境なき楽団

・「音楽は人と人の心を繋ぎ、笑顔と調和を生み出すツール」という考えには、まったく同感です。これとまちや地域が、具体的にどのように関係しているのか、関係し得るのか、もどかしいのですが、私にはいまひとつクリアなイメージが湧かないのです。歌う人同士だけでなく、未だ歌わない人々ともどのように繋がるのか、来年の報告が楽しみです。

1-11 椎の木のしいのみたち

・地域共生の家に魂を込めるような活動だと敬服しています。また同じ地域に暮らしているのに普段はほとんど接点のないだろう大学生と高齢者を繋げていることも、素晴らしいです。活動の記録や参加者の感想などを綴った記録をぜひ作ってほしいと思いました。

1-12 グリーンライン下北沢

・下北沢で継続的に活動されていることに、敬意を表します。以前には助成に至らず個人的には悔しい思いをしたこともありました。今回の企画では「みんなの庭プロジェクト」が特に魅力的に聞こえました。ぜひ実現して下さい。一方でアイディアプラットフォームをHPで、というのは、なかなか難しいのではないかと考えました。

1-13 旧柳澤邸を保存・活用する会

・地域の資源を慈しみさらに貴重な地域の宝にする、皆さんの発表からはそんな感じが伝わってきました。ただ住民の方々の参加の方法が未だ具体的に構想されていないのでは、と思います。本当に必要なワークショップを重ねて（形式的でなく）、100年変わらない風景を実現して欲しいです。100年変わらない風景とは、100年愛される風景ですものね。

1-14 世田谷社会人勉強会 ミライエ(仮)。

・やはり具体性、実現性への疑問を払拭できませんでした。特に今回のような企画の場合、対象者や目的の設定や成果の評価方法が重要だと考えますが、これへの明確な回答、あるいは方向性を伺えなかったと思っています。しかし私が理解できなかつただけなのかもしれませんから、ぜひ活動を開始してもらいたいと思っています。

1-15 劇団ほぼ無職

・とにかく説得力のあるプレゼンテーションでした。なにかこう、深刻で真剣な問題を笑いと滑稽さに持ち込みながら、しかししっかりと問題は見据えている感じ、そしてそれを表現できる力に、感銘を受けました。様々な地域イベントへ参加されるとのこと、有名劇団および劇団員として（もちろん居場所を持った劇団員として）、来年お会いできることを楽しみにしています！

1-16 SMILE PLANET

・ポスターセッションでお話を聞いても最後まで、活動の具体的な姿をイメージすることができませんでした。何時、どこで、とれくらいの人々が、どんな企画に、どの程度参加し、感想はどうだったのか、具体的に教えていただきたいかったです。しかしこれも私の理解が至らないだけなのかもしれません。ぜひ活動を継続され成果を上げていただきたいと思っています。

2年目

2-1 よみきかせボランティア藤の会

・会員の大幅な増加、おめでとうございます。昨年課題としてあげておられたことを見事

に実現された手腕に脱帽です。また成城地区のまちづくりのメンバーとして活躍されている様子にも、感銘を受けました。防災紙芝居の報告を楽しみにしております。

2-2 世田谷区民のライフスタイルを考える会

・昨年も感じたのですが、活動が多岐にわたるせいか、いまひとつ具体的な活動イメージが明確に伝わってこないのです。今年の提案の中では特に「世田谷式保育園」です。とても大事な課題でしかも高齢者やペットと一緒に子どもが保育されれば、それは最高ですよ。多分私の想像力が不足しているのだと思います。来年の報告を楽しみにしています。

2-3 フレンドリーグループ

・「地域と化学反応」を起こしている活動は、素晴らしいです。誰かが花壇作りをしていることが通りすがりの人の心に起こすだろう大切にされている場所への感覚、私は強く同意します。ただ活動内容、実施スケジュールでは、もう少し具体的に内容を述べて欲しいと思いました。

2-4 子どもでつながるハートくらぶ

・「共育力のある地域」という素敵なキーワードに感銘を受けました。子どもが楽しく暮らせるための活動が、地域に共に働く力をもたらすという回路は素晴らしいと思います。具体的にどのような影響が地域に及び、「共育力のある地域」とはどのようなものなのか、来年の報告を心から楽しみにしております。

2-5 トランジション世田谷茶沢会

・活発に活動されている様子が今年の報告からもよく分かりました。東北の地震を受けて地域を破壊する原発に頼らないエネルギーシフトを市民サイドから提案し、実行する活動に、賛同しています。しかもそれにマルシェ、コミュニティ・ガーデンと絡めて活動するので、楽しくないわけがないですよ。皆さんの活動がまちに刻み込まれ、姿を現すように願っています。

2-6 どんどんガガガ隊！

・今年のガガガのプレゼンテーションは、なんとなく元気がないように思いました。しかしそれは今年の活動から引き出された、「基本の活動のながれから新しいものを生み出した」という謙虚な感覚の表れなのだと思いつめました。いろいろなまちでいろいろな子どもや大人と描いた絵の展覧会や画集など、見てみたいです。ゆっくり頑張ってください！

2-7 世田谷環境学習会

・精力的な活動に敬意を表します。いくつかの活動の集合体のように見えるので、どうし

でもその統合が気になります。「環境講座」がそれに当るのは理解しているのですが、よりまちに直接表れるような統合のあり方がないか、環境マップなのか、感想文マップなのか、私も考えてしまいますが、ぜひ新しい方法を考えていただきたいと思います。

2-8 世田谷・L i e n

・まちの中に「弱い」人たちを支えようとする人々がいることは、本当に大切なことだと思います。メンバーの事情など大変な状況でも、可能な範囲で活動を継続され、多くの人々とつながり、助け合いが生まれているとのこと、素晴らしいと思いました。ただメンバーの拡充は、どうしても必要なのではないかと思います。つながった人びとの中からリクルートできるといいですね。

3年目

3-1 街づくりの仲間たち

・議員にまちの将来のための基本構想・基本計画について、それぞれの意見や立場を明らかにするように求める運動は、まちづくりの基礎とも言うべき活動だと思います。今回は、議員のサボタージュへの対応策が評価されなかったのかと思いますが、重要な活動ですから是非継続していただきたいと思いました。

3-2 NPO 法人 玉川にエコタウンをつくる会

・着実に目的に向かって進まれている様子がよくわかりました。今年の活動内容、スケジュール共によく考えられた戦略的で素晴らしいものだと思います。ファンド助成の年限を迎える来年度以降の活動の資金面を検討され、玉川高校の跡地の活用にまで繋げていただければ素晴らしいですね。

3-3 千歳小おやじの会

・ついにお母さん会員を迎え入れ、「青年隊」も作ってしまおう！という「地域活性化精神」には脱帽です。PTA と別組織にして OB おやじもずっと町にかかわり続けられるようにしたこと、さらにお母さん、子ども達も巻き込んでサステナブルな地域活性化の仕組みを作っていること、本当に感心します。物置を購入できると良いのですが……。

3-4 からすやま地域の力を集める会

・圧倒的な力を持つグループだと思っています。地域に関わる多くの人々、特に災害弱者といわれる人々を支え、支える町を育む活動を進めていただきたいと思います。ただ音楽がどのように必要なのか、十分に理解できませんでした。

■まちを元気にする拠点づくり部門 予備選考

【部門全体講評】

予備選考ではどの企画も甲乙付けがたく、運営委員全員がとにかく次のステップを見てみたいということになりました。しかしこの部門の予算は残額が 500 万円余となっており、12 月の本選考では助成先を一グループにしなければなりません。運営委員としてまさにつらい選択になるのだと覚悟していますが、夏には皆さんの活動場所を見せていただき、またこれから半年間での企画の進捗などを確認させていただき、本選考に望みたいと存じます。

4-1 パーマカルチャーガーデン世田谷まくびと

・イメージ絵が素晴らしいですが、ちょっとスケールアウトですね。また質疑応答にもありましたがマンションの 3F という点が気になります。地域の人々への開き方を具体的に（週何日、何時間など）示して下さい。たぬき祭り会場など、合わせて現地見学でご説明いただければと思います。

4-2 せたがやカフェ

・風景資産の拠点、地域の拠点、両者をどのように組み合わせるのかを、もっと聞きたいと思いました。活動も、空間も、この両者の組み合わせ次第でこれまでに前例のない素晴らしいものになると感じました。一方でよく考えられていないとバラバラになってしまう、あるいは風景資産の事務局としての拠点になってしまうのではないかと危惧します。やはり地域の拠点としての位置づけをファーストに考えていただきたいと思います。

4-3 特定非営利活動法人ら・ら・ら

・子ども、障がい者、高齢者、まちに暮らす「弱者」たちが、一緒に過ごす場所を作りたいという考えには、もろ手を挙げて賛成です。そこは、おとなで健常者で若い人もうらやむような、楽しい場所になるのではないのでしょうか。具体的にどのように地域住民へと開くのか、まちづくりとのつながり、この 2 点を現地見学の際に教えていただきたいです。

■ 災害対策・復興まちづくり部門

【部門全体講評】

この部門はその存在自体を公益信託世田谷まちづくりファンドの契約上の委託者である「トラストまちづくり」から問われている部門です。世田谷まちづくりファンドがなぜ東北の町の復興にお金を出さなければならないのか。しかし、お金だけでなく世田谷のまちづくりが培ってきた力のすべてをもって仲間のまちの遭遇した悲しみに向き合い、手を携えて復興に向かうことは、どうしても必要なことだと私は考えています。それでもなぜ世

田谷まちづくりファンドが、という問いには助成を受けられたグループの活動内容で応えなければなりません。昨年度の活動の報告会は2013年3月2日に成城ホールで開催され、160名以上の参加を得、報告内容も素晴らしいものでした。この報告会によってこの部門の正しさが確かめられたと思いますし、同時に世田谷のまちに多くのものが持ち帰られたと考えています。今年助成をうけることになられた4グループの皆様にも、仲間のまちを助け、支えた経験を自分のまち世田谷へ伝えていただきたいと思います。

5-1 遊びとまち研究会

・私としては昨年の活動内容の世田谷へのフィードバックが十分なものとは考えられませんでした。サバイバルキャンプなど私としては気になる言葉もありますし、子どもへの震災前の経験の聞き取りなど、繊細な活動内容なのではと思います。しかしそこをクリアし、学ぶべきをぜひ教えていただきたいと思います。報告会、楽しみにしております。

5-2 福島の子どもたちとともに・世田谷の会

・昨年の活動報告は大変勉強になりました。原発被害は長期にわたるものですから、被災者の方々を支える活動も、息の長いものでなければなりません。皆さんのプレゼンからはそんな姿勢を十分に感じました。私は皆さんの活動を尊いものだと思っています。報告会、楽しみにしております。

5-3 烏山ネット・わあ〜く・ショップ「東日本大震災被災地支援&世田谷区被災時の対応を事前に考え、その対処を考えるプロジェクトチーム」

・昨年度の活動とその報告は本当に素晴らしいもので、学んだことがたくさんありました。特に「支援してもらおう技術」などは、実にはっとさせられる、現場でしか学び得ない知識なのだと思います。ただ今年度の活動方針、内容が、昨年の活動をどのように踏まえたものなのか、昨年以上の成果が世田谷にもたらされ得るのか、確信が持てませんでした。

5-4 S.S.TASQ タスク

・世田谷区が被災地支援を行う区民を更に支援するボランティア・バス。そこからこのような素晴らしいグループが生まれていることを知りませんでした。素晴らしい活動を積み重ねられておられると頭が下がる思いです。ただ今回は、世田谷への学びの還元の方法がよく見えなかったこと、HP作成費用の妥当性が理解できなかったこと、この二つがネックになりました。

5-5 こちカフェ隊 with 岡さんのいえ TOMO

・昨年の活動報告にも、深い感銘を受けました。今年の活動方針・内容にはさらに強い印象を受けました。皆さんが世田谷と新東名の双方を同じコミュニティという立場から見よ

うとし、そこから本当に学ぶべき物事を見出そうとしていることには、被災地支援という枠組みをはるかに超えた、コミュニティとコミュニティのつながりへの可能性を感じます。報告会、楽しみにしております。

5-6 CRAFTMAN 世田谷

・大変おもしろそうで楽しそうで、しかも大事な活動なのではないかと感じました。子どもたちは、自分で物を作る楽しさに熱狂するのでしょうかね。大人も同じかもしれません。支援物資をただ手にするよりも、自分たち自身で必要なものを創り上げ、用意することは、生命力の根源的なところにふれることなのだと思います。報告会、楽しみにしております。

5-7 命つなごうプロジェクト

世田谷を主な活動の舞台にしながら、粘り強く活動されてきたことがよくわかりました。特に原発災害の最大の被害者・被災者である人びととつながろうとする皆様の姿勢に、これから何十年も必要になる支援のあり方をみたような感じがしました。「命つなごうプロジェクト」という名前にも皆様の確信が現れているように思いました。まちづくりファンドの助成の有無に関わらず、ぜひ力強く活動を進めていただきたいです。

5-8 特定非営利活動法人 国際ボランティア学生協会

・「被災地の子どもたちに「命の大切さ、防災の取り組み」を講習し、その成果から世田谷の青少年へ防災や命の大切さを伝える」という回路が、よく理解できませんでした。さらに、それがどのように世田谷のまちへのフィードバックになるのか（もちろん一人ひとりの子どもの意識向上などはあるのですが）、イメージできませんでした。

■10代まちづくり部門

【部門全体講評】

まちづくりには、多くの世代が関わるべきで、しかもべき論ではだれも関わってくれない、だから楽しく呼びかける方法を模索してきました。運営委員の首藤さんの尽力で、まちづくりに本当に楽しく頼もしい仲間ができたこと、とてもうれしく思っています。10代の若者の本当に素晴らしいプレゼンで、会場全体が盛り上がり幸せになりました。来年以降もこの部門から、新しくフレッシュな仲間が増えることを願っています。

6-1 キャラメルポップコーン

・素晴らしい！！皆さんの何かやりたいっ！て気持ちが、まっすぐに伝わってきました。特に私が好きだったのは、一人でも誰かとつながれば「街づくり」という皆さんの考えです。一人でも多くの人々をつなげてくださいね！報告、楽しみにしています。